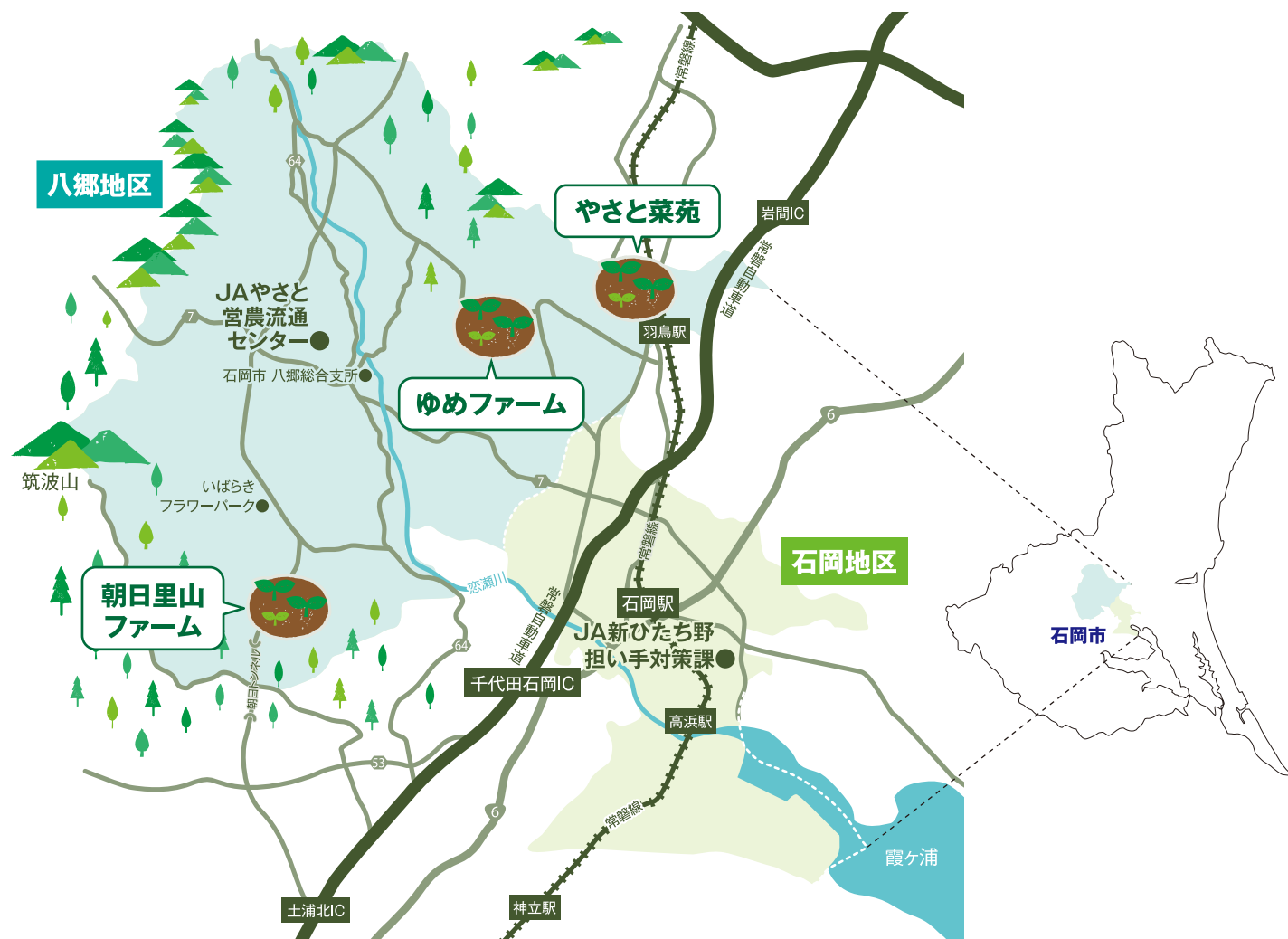




研修 機関

〈朝日里山ファーム〉石岡市

〒315-0143 茨城県石岡市柴内630

TEL.0299-51-3117

〈ゆめファーム〉やさと農業協同組合

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1

TEL.0299-44-1661

〈やさと菜苑〉やさと菜苑株式会社

〒315-0122 茨城県石岡市東成井1333-3

E-mail 8310saien@gmail.com

関連 機関

茨城県県南農林事務所

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋5-17-26

経営・普及部門(野菜・果樹)

TEL.029-822-8517

企画調整部門 振興・環境室 畜産振興課(畜産)

TEL.029-822-8521

公益社団法人 茨城県農林振興公社(茨城県新規就農相談センター)

〒311-4203 茨城県水戸市上国井町3118-1

TEL.029-350-8686

やさと農業協同組合(営農流通センター)

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1

TEL.0299-44-1661

新ひたち野農業協同組合(担い手対策課)

〒315-0035 茨城県石岡市南台3-21-14

TEL.0299-56-5802



石岡市

【相談窓口】石岡市新規就農者支援センター(石岡市役所農政課内)

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680-1 TEL.0299-43-1111 FAX.0299-43-6384

令和6年12月発行



新規就農者INTERVIEW

ISHIOKA

Farming
Story

いしおか就農ストーリー

石岡市新規就農者研修農場 朝日里山ファーム

石岡市で
農業はじめよう!



肥沃な大地に触れ
自分の手で育て
収穫する喜びを仕事に。



農業に関心は無かったのですが
現在は野菜を育てる大変さと喜び
その両方を実感する毎日です。

第7期生 有機野菜コース(研修2年目)

井上 慎義さん 麻璃奈さん

INOUE TSUYOSHI & MARINA

田舎への移住を決意させた 新型コロナウイルスの発生

東京生まれ東京育ちの井上さんご夫妻。慎義さんはエンジニア、麻璃奈さんはエステティシャンとして東京で働いていました。お二人は何不自由なく暮らしていましたが、2020年に新型コロナウイルスが発生し、人口密度の高い東京は感染する可能性が高く、行動範囲も限られました。さらに、慎義さんが喘息気味だったこともあり、真剣に田舎での暮らしを考えるようになったのです。そこでお二人が向かったのが認定NPO法人ふるさと回帰支援センターが開催するイベントです。

このイベントは、北海道から九州まで各地のブースを設置し、移住先を紹介することが目的。その中で慎義さんが注目したのが『朝日里山ファーム』です。「農業に興味があったわけではありません。むしろ、農業に関して未経験で土地も所有していない自分に農業ができるとは思っていませんでした。しかしお話を聞くと、農家として独立できるよう支援してくれる制度だと

知り『朝日里山ファーム』に興味を持ちました」。無農家の有機農法であることも、慎義さんの気持ちを惹きつけた一つの要因です。「生きていく上で食は非常に大切です。安全で健康に良い野菜を作ること、これから重要になるのではないかと思います」。

麻璃奈さんは「農家というと、普通は代々受け継がれていくものだと思っていました。だから土地も経験もない私たちが新規就農できるなんて、本当にビックリです(笑)。ただ自然に囲まれて生活するだけではなく、自分たちで経営する農家になれるなら挑戦したいというのが率直な気持ちでした」。

実家のある東京から比較的近いことも、移住先を選択する際の決め手になったということです。

未経験の新規就農者でも 独立した農家として扱う支援体制

会社勤めは安定していますが、収入の面ではある一定の金額を超えることは出来ません。しかし、農家は頑張れば頑張っただけの収入が見込めます。仕事への手ごたえを感じることができます。「確かにそうですが、実際にやってみると想像していた何百倍も大変でしたね(笑)」。夏の除草作業ひとつをとっても、かなり苦労したと慎義さんは言います。「土を耕して種をまき、育成を管理して収穫する。そして出荷するための選別を経て、やっと袋詰め作業に移ることができます。正直なところ、こんなに手間がかかるとは思っていませんでした」。麻璃奈さんは農業を始めてから、スーパーに並んでいる野菜を見る目が変わったそうです。

指導農家との関係も良好です。「全て

を教えてくれるわけではなく、あくまでも自分で決めて行うのが『朝日里山ファーム』のやり方です。最初は戸惑いましたが、農家としての自覚が芽生えたことも事実です。私たちの指導農家さんは、たまたま同じ歳だったので気軽に何でも話すことができてとても良い関係が続いています」。麻璃奈さんも「分からないことがあればすぐにSNSで聞くことができます。優しく丁寧に教えてくださるので、とても頼りにしています」と笑顔で話してくれました。

また、健康的な生活が送れるようになったと言えます。麻璃奈さんは「生活のリズムが整うことはもちろんですが、野菜をたくさん食べるようになりました。以前の4倍くらいは食べてるんじゃないでしょうか(笑)」。規格外の野菜は自分たちの食卓に上ります。実際に実っているところを見ているせいか、子どもたちも「美味しい!」とよく食べるようになったそうです。

農作業の合間を縫って訪れる 家族とふれあう大切な時間

「就農してよかったことは、子どもたちが作業を手伝ってくれるようになったことですね。あーだこーだ言いながらパパと子どもたちが畑で作業しているのを見ると幸せです。サラリーマン時代は仕事が忙しくて子どもたちをかまっていられなかったもので、パパも楽しいんじゃないでしょうか」。家族がふれあう時間が増えることも、農家ならではのメリットと麻璃奈さんは言います。「現在の目標は、もっと効率を上げて収量を増やすことです。有機農業は基本的に少量多品目ですが、やはり少しでも多く稼ぎたいですからね(笑)」。将来は多くの人たちが農業体験をできるような農場にしたいと井上さんご夫妻は話していました。





一度きりの人生を充実させたい！
好きなことを仕事にするため
覚悟をもって就農を決意しました。

第8期生 有機野菜コース(研修1年目)

越智 雅浩さん 祐紀さん

OCHI MASAHIRO & YUKI

仕事へのやりがいを求めて 趣味の家庭菜園から本格就農へ

大手ハウスメーカーで働いていた越智雅浩さん。出身は奈良県ですが、茨城県龍ケ崎市の支社に11年、その後栃木県小山市の支社に7年間勤務していました。祐紀さんと知り合ったのも、小山市の居酒屋です。二人は次第に惹かれ合うようになり、2019年に結婚。雅浩さんと農業との出会いは、この祐紀さんとの結婚がきっかけとなりました。

祐紀さんは茨城県結城市の出身で、実家には使用していない畑がありました。「せっかく農地があるのに、活用しないのはもったいない…」。雅浩さんは以前から興味があった野菜の栽培を行うことにしました。ラディッシュやモロヘイヤ、アスパラガスなどの栽培を行い、いざ収穫へ。「美味しかったですね。何より自分が育てたので、安心して食べることができる。娘が二人いますが、こういう野菜を食べてほしいと思いました」。当時、雅浩さんは三十代半ば。このままの人生でいいのか、迷いもありました。「会社勤めを続ければ、安定した生活が送れる。でもサラリーマンは楽しいことばかりじゃない。一度きりの人生、本当にやりがいを感ぜられる仕事をやってみたい」。本格的に就農することを決意しました。妻の祐紀さんは「金銭面での不安はありました。でも、暑い日も寒い日も、朝早くから畑に出ている夫を見ていると、本当に農作業が好きなんだなって。思わず『やりなよ』って、言っていました(笑)」と、当時を振り返ります。

どうしたら農業ができるのか。自分で情報を集め、伝手も頼って出会ったのが『朝日里山ファーム』です。「自分がやりたいこ

とが、ここならできると思いました。比較的難しい有機農法で夫婦限定。それなりの覚悟がないと挑戦できない条件だなと。だからこそ、自立した農業者として育ててくれるのではないかと思ったんです」。

最初から独立した農家として 接する、自覚を促すサポート体制

越智さん夫妻は2024年4月に、『朝日里山ファーム』の研修生になりました。「農業を行うための施設は整っていました。畑も農機具も用意されています。また、先輩農家が指導農家として付いてくれることも心強かったですね。指導農家と言っても、手取り足取りというわけではなく、自分で生産計画を立て、それに対してアドバイスしてくれます。作物によって変わる種蒔きの時期や管理方法など、初心者には分からないところをフォローしていただきました。つまり、最初から独立した農家として接していただけるんです」。生産だけではなく、出荷先も斡旋するなど、支援態勢が整っていることも魅力だと、雅浩さんは言います。「有機栽培の野菜を生産する有機部会に所属していますが、そこで様々な情報交換ができます。有機野菜はデリケートなので、出荷する際の規格などにもアドバイスをいただけるのは助かります」。

自己責任の世界だからこそ 仕事と向き合う自分を実感できる

農家への一步を踏み出した越智さん家族。現状をどのように感じているのでしょうか。「農業はすべて自分で決める、言わば自己責任の世界です。でもサラリーマン時代は、自分ではなく会社の一部として行動することが多かったように思います。この部署で働くのは、自分じゃなくても良



いんじゃないかって感じることもありました。もちろん農家にもリスクはあります。しかし、純粹に野菜が成長していくのを見るのは楽しいです。その野菜を食べてもらって『美味しい!』って言っていただけるのは、何物にも代えがたい喜びです」。

祐紀さんは「家庭との両立は難しいかもしれませんが、子どもを畑に連れてきて仕事することもできます。これから農業に興味を持ってくれたら、一緒に収穫なんてことも出来るかもしれません。そうなってくれたら嬉しいですね(笑)」。

将来は採れたて野菜を提供できる 小料理屋をオープンしたい

雅浩さんは「農業は大変なことも多く、休みも少ないのが実情です。でも、作物と向き合っているという実感があります。現在の生活に少しでも疑問があったら、『朝日里山ファーム』で話を聞くのも良いと思います」と話していました。祐紀さんは「最初は不安でした。でも実際に始めてみると、二人で話す時間も増えて楽しい時間を過ごしています。ただ、私はカエルが苦手なので、そこは何とか克服しないとですね(笑)」と笑顔を見せていました。

料理好きな雅浩さんの将来の夢は、農園の近くに小料理屋をオープンすること。取れたての美味しくて安全な有機野菜を使った一皿を、多くの人に提供したいと考えています。



さあ、石岡市で夢をかなえよう

担い手を育てる

朝日里山ファーム

コンセプト

朝日里山ファームは、農業で独立を目指す青年の研修農場です。石岡市柴内にある体験型観光施設「朝日里山学校」周辺の耕作放棄地を再生し、有機農業（有機野菜コース）の圃場として整備しました。

また、令和2年度からいちごコース、令和5年度からぶどうコースを新設し、果樹の研修制度をスタートしました。



施設概要

- 有機農業圃場 1.8ha
- パイプハウス 2棟
- 資材倉庫 1棟
- 作業場・加工施設 1棟
- トラクター・管理機など農作業機材

※いちごコース・ぶどうコースは品目に合わせて圃場を用意します。

新規就農者研修制度

持続的な地域農業のために

有機野菜コースでは、研修に必要な圃場、トラクターなどの機材や設備が揃っています。また、栽培については豊富な知識と技術をもった就農指導員が実践的な指導を行うほか、JA やさと有機栽培部会員が自分の経験を生かしたサポートを行います。

いちごコース・ぶどうコースでは、生産農家が指導員になり、技術の習得や経営面のサポートをします。

就農指導員は、研修終了後の農地の確保や住居の斡旋など、さまざまな問題に対する相談も行い、研修生の独立をあらゆる面でサポートします。



石岡市の魅力

石岡市は、肥沃な大地と温暖な気候にめぐまれ、東京都心から約 70 km という優位性を生かしながら、野菜、果樹、米など、幅広い農業生産が行われています。特に、国内有数の有機野菜やきゅうりを始めとした施設野菜、小菊などの露地花き類、れんこんなどの湛水性野菜の生産が盛んです。また、柿や梨などの果樹類の生産も盛んであり、首都圏で高い評価を得ています。

石岡市の特産



有機野菜 Organic vegetables
70年代から八郷地区に広がり、国内有数の有機野菜産地となっています。



いちご Strawberry
直売や市場出荷、観光いちご園なども盛んで、いばらキッスやとちおとめなどを生産しています。



柿 Kaki
昔から生産が盛んで、富有柿は皇室にも献上されています。令和3年度からはブランド化された「紫峰煌」も販売されています。
しほりのきりめき



梨 Pear
八郷地区は県内有数の梨の産地で、青果物銘柄指定産地に指定されています。



小菊 Small chrysanthemum
県の銘柄産地の指定を受け、年間約350万本が出荷されています。



長ねぎ Japanese leek
1年を通して生産され、王道の白ねぎのほか、赤ねぎも人気があります。



きゅうり Cucumber
表皮が薄くみずみずしい、昔ながらのブルームきゅうりなどが生産されています。



栗 Chestnut
全国上位の生産量を誇っており、焼き栗・むき栗など加工販売も盛んです。



かんしょ Sweet potato
茨城県全域で力を入れており、近年は市内でも生産が増えています。

その他の石岡市就農支援施設



超実践的。有機栽培農家を目指す。

新規就農研修制度 ゆめファームやさと

毎年農家が増え、
継続的に農業が営まれる

ゆめファームやさとの研修制度は、就農希望者支援と地域農業担い手育成のために行っている事業です。毎年1家族を受け入れ、実践的な研修を2年間行なった後、地域の生産者として活躍していただきます。

- ① 年齢は45歳までで、夫婦で研修生となること。
(研修後は石岡市内で独立。
※ゆめファームは八郷地区内で独立。)
- ② 研修は2年間。毎年1家族ずつの受け入れがあるため、同時期に2家族が研修を行うこととなる。
- ③ 研修農場(1夫婦あたり約1ha)、パイプハウス、トラクター、管理機などの農機具や資材は研修元が提供。
- ④ 研修生は栽培から販売まで自分で行い、栽培に必要な技術は実技を通して身につけ、また不十分な部分についてはJAの有機栽培部会での生産者仲間へ相談したり、指導を受けたりすることで学んでいく。
- ⑤ 国の支援制度により、就農前の研修を支援。



これまで
24家族が
有機野菜生産者
として独立

農業法人で働きながら技術習得!

地域担い手育成事業 やさと菜苑株式会社

正社員として受け入れ地域の
生産者として育成する

同社の地域担い手育成事業は将来的に農業で自立する意思のある方を正社員として受け入れ、地域の生産者として育成することが目的です。これまで15名が農家として独立しました。今後も積極的に研修生受け入れ、地域農家の育成を目指します。

研修の目的

- ① 農作業の習得。
- ② 価格、販売動向などを踏まえた計画的農産物生産の習得。
- ③ 農地を有効利用した農法・品質向上方法の習得。



これまで
15名が
地域の生産者
として独立